タイトル	知ろう！タンザニア！～発見から考えよう～		
氏　　名	足立　愛佳		
学 校 名	有田川町立吉備中学校		
担当教科	英語・総合（国際理解）		
実践教科	英語・総合（国際理解）	時 間 数	６時間
対象生徒学年	１年生	対象人数	９０人

カリキュラム案

（１）実践の目的

・国際的な視野を持つための第一歩として、タンザニアを通して世界に興味を持たせる。
・タンザニアの現状を知り、社会、国、世界、人生について考えるきっかけを与える。

（２）授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
１～２限目 タンザニアってどこ？ ねらい：タンザニアに興味を持つ	・ブレインストーム ・質問を考える ・手紙	・ライオンキングの音楽 ・タンザニア国旗・地図 ・プリント
３限目 行ってきたよ！ ねらい：自分の想像と比べ、タンザニアを知る	・プレゼンテーション ・クイズ・体験（お金を触る・カンガに触れる・頭で物を運んでみる）	・パワーポイント・音楽 ・カンガ・ティンガティンガ・バケツ ・タンザニアシリング
４～５限目 貿易ゲーム ねらい：世界の現状、先進国、途上国の関係を考える	・ゲームをする ・振り返り 感じたことを書く・班で話し合う・発表する プレゼンテーション	・ハサミ・コンパス・紙 ・鉛筆・分度器 ・偽物の紙幣・プリント ・パワーポイント
６限目 タンザニアの中学生になろう ねらい：タンザニアの当たり前を知る 現地とつながる	・タンザニアの中学校の基本情報を伝える ・なりきりセットのプロフィールに書かれている人物になりきる ・指示に従い生徒が行動すると同時にプレゼンテーションで説明を加えていく	・なりきりセット（プロフィール・ノート・紙・ペン・現地の教科書） ・飴玉 ・鍋・木の棒 ・プレゼンテーション

実践授業の詳細

＜１～２限目＞

タンザニアの研修報告をする際により興味を持ってもらえるよう、研修前に事前学習としてタンザニアに対するブレインストーミング、タンザニアの人たちへの質問を考えた。また、現地の人々へ英語で自己紹介文、日本を紹介する絵などを載せた手紙を書いた。１つ１つの手紙には折鶴をつけた。

生徒の反応

とても興味を持って参加していた。

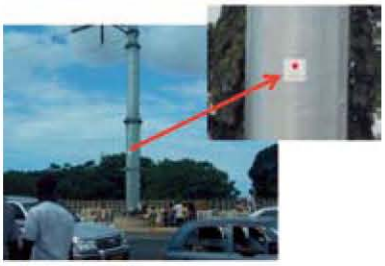
＊ブレインストーミングででたタンザニアのイメージ
（ジャングル・野生動物・虫を食べる・エイズ・水道外にある・原始時代など）

＊人口や気候、物価、食事などの基本的な情報から、自然、家庭生活、身体的特徴、学校や子ども、タンザニアの流行、日本人に対するイメージは何かというものまで様々な質問を浮かべていた。

＊習いたての英語が伝わるのだということに喜んで手紙を書いていた。「何かわかるかな～、喜んでくれるのかな～」と不安そうにしながらも牛丼や日本のアニメキャラクターなどの絵を描き、工夫して手紙を作成していた。

＜３限目＞

研修で自分が見てきたありのままのタンザニアをパワーポイントにまとめ紹介した。事前に生徒が持っていたタンザニアについてのイメージ（ブレインストーミングをしたポスター）を見せ、自分の想像との相違点に注目させた。都市・郊外の街・村のそれぞれの生活環境、人々の様子、医療やインフラの状態、協力隊や日本の支援などをビデオも用い説明した。プレゼンテーションの中にはクイズを取り入れたり、お金を触ったり、カンガを巻いてみたり、頭でバケツを持ってみるなどの体験コーナーも設けた。プレゼンの後には感想を書いてもらった。実際に生徒が感じたことを知るために、何が良い、悪い、という私自身の考えは伝えないように説明をするようにした。



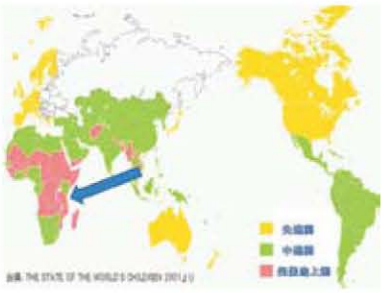
生徒の感想

・日本はとても恵まれているのだなぁと思った。
・日本に住んでいてよかった。
・日本は裕福な暮らしをしているんだなと思った。
・タンザニアには正直行きたくない。
・貧乏だけれど、みんなに協力してもらってとてもいい国になっていると思う。
・田舎の人たちは生活が大変そうだけど、みんな笑顔だったのが印象的だった、なぜあんなに笑顔でいられるのか。
・タンザニアは貧乏だというイメージがあったけれどとても楽しそうな町だった。一度家族で行ってみたい。

・日本とは生活がぜんぜん違う！
・都市や村の違いがすごかった
・整備が整っていないのがすごいと思いました。
・かわいそうな人が多かった
・タンザニアの子どもは周りに何もないのに幸せそうだと思った。
・先生がきいた「幸せですか？」って質問に子どもたちが「超幸せ」と答えたのを見て「あれ欲しい・これ欲しい」と我がままばっか言う私はぜいたく者だなぁと思った。
・はじめは黒人は悪くて怖い人だと思ったけど優しい人もたくさんいるんだとわかった。
・日本とタンザニアは思っていたより関係が深かった。タンザニアの人と日本の人、両方が幸せに暮らせるといいなぁと思った。
・日本人がタンザニアでがんばっていると思うとうれしい。日本の支援で医療をととのえていけたらいいのに、と思った。
・タンザニアの人たちも希望をもって生活しているのだと感じた。これからも世界中の人が助け合って幸せな生活ができたらいいです。
・タンザニアの中でなんで街並みが全然違うのか？

<４～５限目>

３限目のプレゼンテーションで生徒は、タンザニアは日本と生活環境が大きく違うということ、タンザニア国内でも村と都市で差があることに深く驚いていたため、貿易ゲームをすることにした。ゲーム後に前回の授業での生徒の感想、エチオピアの飢餓・緑の革命の話を用い、振り返りを行った。自分の利益ばかりを考えて行動することの危険性を考え、先進国に生まれた私たち日本人はタンザニアのような発展途上国に対してどのように関係していくべきなのかを考えるきっかけを与えたかった。

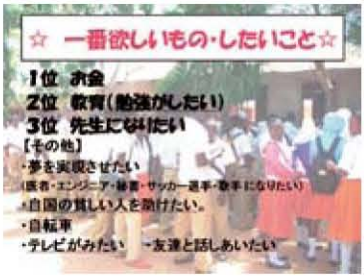


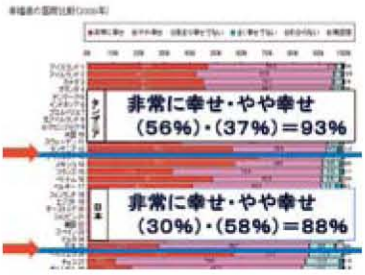
生徒の感想

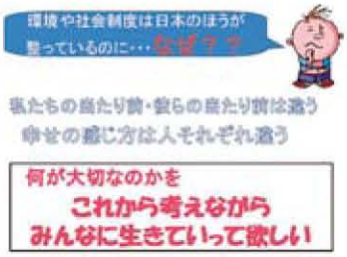
・このゲームがこんな大事な話につながるとは思わなかった。自分たちの利益ばかりを考えているから世界の中でもいろいろな国があるとわかった。自分たちの利益を考えるのはしょうがないと思うけれど、自分たちだけでなく、他の国とも協力して暮らしていかなければならないと思った。
・世界は平等にはならないのだろうか。
・アフリカは発展途上国ばかりで、商品のパッケージとかで見る「売り上げの○%をアフリカに送っています」と書かれているのはそのためかと思った。
・やっぱり日本は幸せだなぁ。タンザニアはかわいそう。
・日本は先進国だったんだなぁ。現実を知ったら少し悲しくなった。
・先進国は自分のことしか考えていない。
・途上国を助けたいけれどゲームで僕たちは先進国だった。それでも僕たちは途上国を助けなかった。
・このままだと国の差はひらくばかりだなぁ…

<6限目>

事前学習で用意した生徒のタンザニアの人々への手紙はどうなったのか、という話から授業を始め、それがタンザニアの中学生に届いたことを伝えた。生徒一人ひとりが名前のあるタンザニアの中学生、または子どもになるシュミレーションゲームをし、タンザニアの中学生の様子を知る授業にした。タンザニアの中学生の学校生活の一部を疑似体験させながら、学校に行っていない子どもがいること、留年制度があること、お昼ご飯なしで過ごす中学生がいること、学校の施設・教材が整っていないことなどを説明した。現地でとってきたアンケート結果を利用し、タンザニアの中学生が考える幸せについても考えた。







生徒の感想

・手紙を喜んでくれてすごくうれしかった。
・タンザニアの子どもは働かなくちゃいけなくて大変だなぁと思った。でもお金をもらえるのはいいいなぁ。とてもいい体験ができた。
・体罰をするのはおかしい
・自分たちは勉強が嫌いだけれど、タンザニアの人たちは好きで素晴らしいと思った。
・席をわけあって座るほどタンザニアの子はやさしいんですね。
・あんまり自分たちとかわらなかった。（自分のクラスみたいに元気）
・私たちが普通に思ってることは普通じゃないことが分かった。
・１つの机を１人で使える僕たちは幸せだと思った。
・お昼を食べないで授業にでるなんて考えられない。
・教科書がないと授業がわかりにくいなぁ。
・あまり環境は良くなかったけどみんなとても楽しい生徒だと思いました。
・タンザニアの生徒は日本の生徒と違ってもっと良いことを求めず、今の生活を楽しんでいるのだと思う。タンザニアの生徒は夢と希望を持って生活をしているので私たちは贅沢を言えないと思った。タンザニアの生徒になってみるのは楽しかった。
・物であふれている日本でも幸せと感じる人が少ないのにタンザニアの人は物がなくても勉強ができたり、家族がいることだけで幸せなんだなと思った。
・「勉強がんばれ！自分もがんばります」とタンザニアの中学生に伝えたいなぁ。

実践授業を通しての所感・反省点・今後の改善

現地研修では、膨大な量を広く浅く学んだので、子ども達に何をどのように伝えていったらよいのか焦点を絞れず悩むところがあった。そのため、私の学びをありのまま伝え、子どもたちと一緒に考えていくことにした。反応を見て次に何をするかを決めた。その結果、子ども達の知りたいことを伝えていくことができ、世界に興味を持たせることに繋がった。参加型の授業は好評で子ども達は積極的に活動に参加してくれた。しかし、今までの学びを自分の生活と関連させて考えることはまだできていない。これからの授業では今までの学びを実生活に活かすことに焦点をあてていきたい。